

本日の卒業式挙行に際しまして、卒業生の保護者として、PTA会長を拝命している者として、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、学校運営協議会委員のみなさま、地元自治会長のみなさま、交通指導員のみなさまのご臨席を賜り、今日の晴れの日を迎えられたことを嬉しく思います。

東原中学校の学校運営は、卒業生に限らず、すべての生徒にとって、地域のみなさまあってのものでした。日頃から、生徒たちを我が子のように、温かく見守り、学校を力強く支えてくださったみなさまに深く感謝申し上げます。

卒業生の保護者のみなさま、3年間にわたり、PTA活動にご理解とご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

一人息子の親として思いますのは、友達や先生方に恵まれ、その結果、想像以上のペースで大人になっていくわが子を頼もしく、嬉しく思えました。その一方で、小さかったわが子が親の手から離れていくようで、どこか寂しくもあり、何とも言えない戸惑いがあったのも事実です。

わが子の「進路の決定」という、初めての経験に直面した私にとって、同じ親としてみなさまの存在は、実はとても心強く、ありがたい存在でした。

今日まで同じ経験をしてきた、「同志」としてのみなさまと、今はその日々をともに労い、高らかに乾杯したい気持ちでいっぱいです。

校長先生はじめ、先生方。わが息子をはじめ、個性に富む卒業生64名ひとりひとりに真剣に向き合い、ご指導いただきましたこと、感謝に堪えません。心身ともに子供から大人に変わる中学校3年間、勉強だけでなく、人として徳を積むことなど、多くのことを教えていただきました。親だけではできなかったことを、先生という立場からのお力添えのおかげをもちまして、大きく成長し、それぞれの進路も見出して、今日の日を立派に迎えることができました。生徒たちは面と向かって感謝するには照れくさいかもしれませんが、心から感謝をしていることに間違いありません。私からも感謝申し上げます。

卒業生のみなさん、改めて、ご卒業おめでとうございます。

「今日という日は、残りの人生の最初の日である」

2年前、当時のPTA会長が卒業式のあいさつで引用した言葉です。

それから2年が経ち、今日、卒業を迎えられるみなさんは、いくつもの最初の日を迎え、そして明日から、新たな環境で、また最初の日を迎えることになります。

みなさんにとっての中学校3年間はどんなものだったでしょうか。とても興味深いところですが、その答えは、みなさんの心の中に秘めておいていただければと思います。ただ、その答えを、思いを共有してくれる友達や先生方がいるということ、忘れないでほしいと思っています。

学校はずっとここに 있습니다。

「卒業」というと、お別れのイメージが確かにありますが、実は、東原中学校の「生徒として過ごす時間」より、「卒業生として過ごす時間」のほうがこれからずっと長くなっていきます。ですから、ここで出逢った友達、先生方とのご縁、つながりを大切にしていきたいと思ひます。

これからの長い人生において、新しいご縁を得て、つながりを作っていくことは必要かつ大切なことですが、一度できたご縁や、つながりを大切にし、維持していくことも同じくらい重要だと私は考えています。

明日からの新しい生活の中で、会えなくなる人も出来るかもしれない。けれど、この東原中学校は、みなさん自身が掴んだ、栄えある母校であります。

我々親は、余計なことを言うてしまうかもしれない、鬱陶しいかもしれないけど、誰よりも我が子を信じながら、木の上に立ってでもずっと見守っていきたくて思うのが親であります。もう、自分の力で多くのことができるみなさんですが、困ったとき、悩んだときには、恥ずかしがらずに頼ってほしいと思ひています。

日光市のブランディング NEW DAY, NEW LIGHT.

新しい日に新しい光が射す、ここ日光で育ったことを誇りに、狭い広い世界へ、輝かしい未来への第一歩を堂々と踏み出してください。

校長先生がおっしゃった3C。変化し、挑戦し、積み上げる。手塚先生がおっしゃった「人の長所に協力する」そんな大人になってほしいと願っています。

みなさんの頑張りを、3年間見させていただきました。

その姿はとても素晴らしく、清々しかったし、感動しました。泣きそうにもなりました。

そんなみなさんの門出に立ち会えたこと、私もとても誇りに思います。

そして、いただいたご縁、つながりを嬉しく感じ、心から感謝申し上げます。

みなさんの前途が、笑顔の絶えない、素敵な日々であること、幸多からんことを心から祈ります。

令和8年3月10日

日光市立東原中学校PTA会長 小林 幸広